

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700669		
法人名	社会福祉法人 瑞祥		
事業所名	グループホームオレンジ		
所在地	愛知県知多郡美浜町大字野間字新前田212-1		
自己評価作成日	平成23年10月3日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成23年10月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、利用者一人ひとりの人格を尊重し、認知症があっても、その人らしく生活を送ることができるように努めている。また、利用者個々の有する能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を送り、一人ひとりが役割をもって生活していただくための自立支援を行っている。また、地域交流行事等への参加を通じて地域へ出向き、地域住民の方々に訪れていただく機会を積極的にもつて、地域交流の機会を大切にしている。同様に、利用者家族との良好な関係を維持することができるよう、ふれあいの場を増やすよう努めている。法人で行う「オレンジふれあい夏祭り」「オレンジもちつき大会」「オレンジ昭和村」には多数の地域住民が参加し、家族も参加し、ふれあいの機会となっている。

また、認知症ケアに対する職員の知識向上のため、職員の教育・研修の機会を大切にしている。施設外研修への参加に加え、施設内でも外部講師による研修会を開催し、研修機会の確保に努めている。

最後に、併設した施設、事業所との連携を十分にとることで、医療・保健・福祉の複合体として、利用者様安心、安全な生活を確保できるよう努めている。併設施設、事業所があることで、退去後の相談にも迅速に対応し、利用者および利用者家族の生活の場の選択に資することができるよう相談の機会を作っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の尊厳を守り、地域貢献に努めるという創設者の理念を全職員が共有して統一したケアに取り組んでいる。また、理念の中から生まれた道徳教育を重視し、人づくりを育むことに努めている。医療体制のバックアップのもと法人と共に地域に溶け込み、行事を通して馴染みの関係ができています。家族の面会の時は顔見知りの他の利用者とも話をしている。研修は定期的に法人内で行っており職員の介護の技術が上がってきている。また、職員はスキルアップのために資格を取る環境が整えられており職員の士気の向上に努めている。回想法の一環として施設内で昭和村を開催し、地域の人や利用者・家族らの参加が増えている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームでの生活の中でも、住み慣れた地域で、誇りや生きがいをもって暮らし続けることを重視した理念を掲示しており、職員は理念遂行のための役割を理解し、家族や地域住民の協力を得ている。	理念である地域貢献や利用者の尊厳を守ることは職員間で統一してケアにあたっている。理念の中から生まれた道德教育によって人づくりを重視することを共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域で行っている祭礼行事や町主催の文化祭、産業祭などの行事に積極的に参加している。また法人主催の夏祭りでは1200名を越す地域住民との触れ合いの場所があり、日常的に交流ができています。	神社へお参りに行った時や散歩の際に近所の人と会うと挨拶を交わしている。また、知り合いの人が法人の病院に来た時にホームへの面会もたびたびある。また、赤い羽根募金に利用者も出かけ、顔見知りの人と会うと話をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や近隣の大学の実習生の受入を積極的に行い、認知症についての症状や接し方、支援方法について理解を深めている。また認知症の方々を地域で支え合う重要性に対する理解も深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、利用者状況や活動報告、感染症予防や防災関連の取組の状況報告、また町からの要望、ご家族や地域の方々の要望等取り上げ、グループホームのあり方を検討し改善している。また入居者全員も参加し、意見交換など出来る機会をもうけている。	運営推進会議の後、出席者と利用者などでデザートを作り交流を図っている。東北の震災以後、災害のことを会議の中で心配する声があり、防災訓練を状況別にこまめに行うようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町や地域包括支援センターが主として実施している、地域ケア会議に参加し運営や現状の報告など情報の共有に努めている。また地域の事業所や併設の特養、デイサービスなどの情報の共有に努め協力関係を維持している。	毎月美浜町包括ケア会議に出席しており、行政からの連絡事項を聞いたり市主催の研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で行っている身体拘束廃止委員会や研修会で、スピーチロック、虐待について学び、職員間で周知を図り、質の向上に努めている。玄関など出入りが自由になっており、地域の方々や他の人々との交流が出来るやすい環境にある。常に危険性を配慮しながら個別性のある生活を支援している。	身体拘束廃止委員会を設置して虐待防止に努めている。研修も頻繁に行なっている。スピーチロックは聞いたり見かけたらすぐに注意し合い、時間を伝えることや先がみえる言い方をするように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で行っている身体拘束廃止委員会に参加し、虐待防止への適切な介護方法や対応など、看護、介護等他の専門職も参加し話し合いを行い、職員間で周知徹底を図り、日頃より意識を高め質の向上を図っている。職員間で情報を共有したり注意しあえる取組を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で行う研修会に参加し、職員の知識を高め、必要性も理解できるようにしている。また家族へは制度に関する資料やパンフレット等を用い説明し必要性が生じた場合は、関係者と話し合いの機会を作る体制ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学して頂き、説明を行い利用者や家族の不安や疑問などその場で解りやすく説明する共に、家族は安心納得し説明の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と職員は日常的にコミュニケーションを図っている。さらに家族からの意見も御意見箱やアンケート等により把握し、サービスの向上に繋げることができている。	利用者の状況を細かく家族に伝えることにより、家族との信頼関係がより深くなり家族の面会も多くなった。普通に雑談ができる関係になり何でも言ってもらえる環境に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎週の業務改善会議にて、職員からの報告、相談、意見等について検討し、的確な指導を行う事で業務の改善に繋げている。	全体会議や業務改善会議などの場で、職員は意見交換をしている。法人として職員育成に力を入れ勉強会を定期的に行うなど、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況については、可能な限り職員の希望を踏まえながら、規則に準じ配慮ができています。キャリアパスや介護職員処遇改善の導入を積極的に取り入れ、職員の勤務意欲へと繋げ、働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回研修会、出張報告会等に参加している。また外部からの講師による研修会に積極的に参加している。年に一度力量評価を行い、その結果より年間の研修計画を立案し職員の質の向上に努めている。また、資格取得の為、各専門職が関わり資格取得の体制ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加盟しており、情報交換や共通の課題などについて検討し、サービスの質の向上に努めている。また、連絡協議会で行う研修会にも参加し、交流の機会を持ちネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や見学等して頂き、生活状況を把握したり、アセスメントを行い抱えている不安やニーズを抽出して不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接や見学をして頂き、家族の不安や要望など傾聴し、不安の軽減が図れるように、的確な情報や提案などを行い、信頼関係を図ることができるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状況を把握し、要望等を聴きとりの的確な情報提供を行っている。また当法人の特性である医療、保健、福祉の複合体を活用し提案も行い他のサービス事業者との連携も図り、紹介出来る体制ができています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方と職員は家庭的な雰囲気の中で共に、掃除や洗濯等の家事仕事を一緒に行ったり、余暇活動ではカレンダー作り、手芸を協力して作品を作り上げ、喜びや達成感を共感できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の気持ちを理解し、日頃よりコミュニケーションが図れるようにしている。また家族が利用者に対して気にかけている情報を提供し、本人との絆が断ち切られないように精神面の援助や良い距離感を保ちながら関わるように家族と職員で共に支え合える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームにいても今までの生活の延長線上であるように友人、知人等に会いに行ったり、訪問してもらえるような関係作りを行っている。例えば昔から利用している理髪店に通い続けたり、お盆や命日などに墓参りを続ける事ができるよう、一人一人の生活習慣を尊重している。	近隣の利用者が多いため家族が面会に来た時には、顔見知りの利用者とも話をしている。また、病院に来た知人がホームへも顔を出して会話している。今までのかかりつけ医への受診や墓参りや外食など家族にも協力してもらいこれまでの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となり、共同で出来る行事などを計画し、親睦を深めあう機会を作るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所された方でも、病院等が近い為、常に連携が密に図れている。家族や本人の状態を配慮し利用者や家族が不安にならないように、相談員やワーカ等とも連携が図れ家族に喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのような思いや、生活を望んでいるのか、傾聴し本人の意向や希望を的確に聴きとり把握が出来るように努めている。また家族からも情報提供してもらい利用者の思いや意向、希望など把握に努めている。	日常の生活の会話の中で要望など良く聞いたり、朝の申し送りや業務日誌、ケアカンファレンスなどで思いや意向の把握をしている。それを踏まえた本人に寄り添うケアサービスが行なわれている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族また地域の方からのアセスメントをもとに、以前の生活に近づけられるように努め、安心した生活が出来るように支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の暮らしや、生活リズムを把握して、個々の状態を職員に周知できるように申し送りや日誌等で確認している。出来ることや出来ないこと等を生活や心理面などから感じ取り、その全体の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族、職員は、ケアプラン策定会議にて、本人がより満足して生活が出来るよう、本人・家族・管理者・職員で本人の思いを大切に、ケアプランを作成している。	本人の身体状況や日々の様子を詳細に把握しており、それを踏まえて、本人や家族、医師、職員などで話し合い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは定期的に行い、評価してケアプランに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子や身体状況の変化など記録し、職員間で情報の共有が出来るようにしている。またモニタリング評価を行い、必要時にケアプランの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に応じて、病院受診の付き添い、リハビリ通院の送迎、介護保険の申請の提出代行等柔軟な対応を心がけ満足度を高めサービスの質の向上に努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある馴染みのお店などとの繋がりを断ち切る事無く継続している。また近隣の店や移動販売のお店に向き顔見知りを作り生活を楽しむことができるように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診通院などは本人と家族の要望に応じて対応を行っている。診察に必要な情報提供を主治医に伝えている。	月二回往診がある。歯科、眼科、耳鼻科など専門医は家族が付き添いしているが、かかりつけ医と連携はできており、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身状況の変化があった場合は主治医に相談したり、併設の看護師に相談や状態を確認してもらえる。また受診の必要性の判断に迷う場合は、すぐに相談や指示が受けられ病院受診が出来るように体制が整っている。早期発見、早期治療が実施できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による、身体機能、認知能力の低下を防ぐため、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員は定期的に面会して安心してもらえるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態や状況に応じた生活の拠点が選択でき、重度化した場合でも家族や本人の希望を聴き、配慮しながら、他事業所との連携を図る事ができている。当法人は医療、保健、福祉の複合体であるため、充実したケアが提供できる体制ができている。その為、看取りは行っていません。	家族はホームが複合施設であることの理解はされており、当事業所と重度化や終末期に向けた方針の共有はできている。職員は出来る限り本人、家族の希望に添うケアサービスに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、法人が開催している研修に参加し実践している。夜間帯においては緊急時対応マニュアルに沿って対応しており職員間で周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年に2回(昼間、夜間想定)の訓練を定期的実施している。また毎年消防署が主催している研修会に参加し、実際に消火器を使用した訓練や非常時の対応等について学んでいる。また自主訓練にて、地震、台風、津波等をそれぞれ想定して災害訓練の実施を行っている。消防訓練には地域住民にも参加してもらい、協力体制を築いている。	9月には台風の想定で、ホーム裏庭に土嚢を使用して訓練をしている。また、災害により利用者の避難方法を検討し最適な方法を職員間で話し合い共有して、防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活の中でプライバシーが守られるように、個室になっている。またトイレや洗面所も各居室に完備され、安心して使用ができるようになっている。表情や声の抑揚等からその時の状態を把握したり、さりげない声掛け等行いながら、プライドを損なわないような配慮に努めている。	理念に基づいた社員教育が徹底されており、利用者を尊重する姿勢は日常的に行われている。また、言葉使いも丁寧である。利用者の書類など目に付かない所に保管して、個人情報保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、コミュニケーションを図り外出時の服選び等は職員と共にしている。また買い物の際は本人予算を決めたり、品物選んだり本人の能力をひきだし、計算できるように見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣を重視し、本人が読書を希望された場合などは、静かに安心して読書ができるように環境を作ったりしている。個々のペースでの生活リズムを大切に考え、考慮しながら希望に添えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	愛着のある服を本人と共に服選びを行い、お洒落をする楽しさを知ってもらっている。また他の入居者の方にもお洒落をした姿を見てもらい、喜びも味わってもらおう。身だしなみへの意識が高くなるように職員と一緒に関わり努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今まで馴染んできた作り方、味付けを職員と共に協力しながら行い、作る喜びや盛り付け、また食器棚への後片付け等共同で行う事の楽しさを味わってもらおう。	年1回管理栄養士が利用者と面接をして、嗜好を聞き日常の献立に反映している。2ヶ月に1回栄養教室があり、そこで利用者と職員が一緒にかぼちゃプリンなどおやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食確認し、本人の健康状態に合わせて味付けにも工夫し栄養バランスにも注意をしている。水分も食事以外でも、お茶、スポーツドリンクや牛乳など飲んでもらい、必要な水分が摂れるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の方、自歯の方に合わせ、本人の能力に応じた丁寧な磨き方の指導をし、食後の都度行うと共に、歯磨きやうがい習慣づけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ使用者は昼夜共に無く、個々の排泄習慣に合わせた声かけやトイレ誘導で、排泄の自立の継続に努めている。また毎日の申し送り、排泄状況が伝えられ、職員間で把握されオムツ無しに努力している。	職員が利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し早めに声をかけて誘導しており失禁を防いでいる。オムツ外しの自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給に努め、規則正しい排便習慣を援助している。食事に繊維質の多く含んだ野菜等で自然排便ができるように努めている。また牛乳など乳製品も活用し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に個人の希望に合わせた時間、個人の習慣、体調等に合わせ、安全性を確保しながら、楽しく、快適に入浴できるように職員ともコミュニケーションを図りながら支援している。	入浴は利用者が入りたい時に体調を確認して入浴しているが、介助が必要な人が増えている。週3回は入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況を把握している。また個々の生活習慣に合わせ、本人が希望する都度休息などを実施し、居室の温度や湿度、照明に配慮して、気持ち良く眠れる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋や、病院よりのお薬手帳を活用し、1人1人の状況を把握しています。薬は個々に預かり、服薬は朝、昼、夕と分別して袋に明記して、飲み間違いがないように見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントやモニタリングを通し、1人1人の理解に努め、職員間で情報を共有している。毎日のレクリエーションは多種に渡り気分転換に繋がっている。また行事も充実し満足度も高い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が思い思いの生活ができるよう、本人の希望時には、外出が出来る体制が整っている。またリハビリ、散歩、神社のお参り等や、産業祭での共同募金には地域や家族の協力をえられている。	買い物ツアー、畑、近隣の散歩など外出する機会が多い。また、隣接する法人の行事もあり、日常的に外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事や買い物などは家族の協力のもとお小遣いとして本人が管理し職員と一緒に小遣い帳を記入している。買い物や外出時には、本人の支払いがスムーズに行えるように、一緒に計算しながら援助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への手紙を職員と一緒に内容を考え、本人の生活の様子は定期的に伝えたり、手紙を出したい時には、家族に手紙を郵送する援助を行っている。また希望により、電話等の援助も随時行い、家族と連絡が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての照明は柔らかく明るい照明になっている。また馴染のある障子を使用している為、落ち付ける。窓も大きく、風通しがよく、景色が眺めやすく季節感を味わう事が出来る。また花壇、畑など農作物を作る楽しみの一つになっている。	居間の室温は気を付けており適温となっている。居間の椅子に座りのんびりする人が多い。食事の仕度での料理の臭いが生活感を感じることができる。また、利用者の作品や習字が飾ってあり季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に自分の時間を過ごしやすいスペースが充分ある。またホールには長椅子が設置しており、気の合う入居者同士で隣り合わせで身近で会話ができるため会話が弾み楽しく過ごせる事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や寝具などは配置を工夫し、本人や家族と相談しながら設置している。家族の協力のもと住み慣れた環境に近づけるように努めている。	居室は一人ひとり個性が出た居室となっており居心地よく過ごせる居室となっている。入居してからホームで作った作品が少しずつ増えて飾ってあり楽しみの一つとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の方にとって何が分かりにくいのか、本人の力でどのような事が出来るのかを考え、状況に合わせて環境を整えている。利用者の身体状況に合わせた手すりの設置や玄関のスロープの設置、また段差をなくすことでスリッパで他事業所間へ気軽に移動できるようにするほか、部屋毎に変えられた色紙を飾ることで見当識への配慮を行っている。状態が代わり、混乱や失敗が生じた際はその都度職員で話し合い、本人の不安を取り除けるよう支援している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2375700669
事業所名	グループホーム オレンジ

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	町の文化祭の出品作品を利用者や家族にも手伝ってもらい、出品した。法人の夏祭りには地域の人たちが集まり交流を図っている。また、小学校の児童が楽器の演奏に定期的に来訪している。職員は近くの野間海岸のゴミ拾いを行ない地域貢献に努めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	2ヶ月毎の運営推進会議には役場の職員、住民代表、民生委員など出席している。行事の報告や感染予防や防災のことなどについて話し合い、情報の共有を図っている。会議の後で出席者と利用者などで交流会を行ない、栄養教室ではデザートを作って皆で食べている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	美浜町包括ケア会議に毎月出席しておりその際に行政からの連絡を聞いたり、認知症や統合失調症などについての研修を行ない連携はよく取れている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	2ヶ月に1回利用者の個別の状況を書いた便りをそれぞれの家族に発行している。利用者の状況を細かく家族に話をするにより、家族とのコミュニケーションがより取れるようになり自然に会話も弾むようになっている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	○	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。